

三重大学人文学部外部評価総評

三重県副知事 江畑 賢治

1. 評価の視点

三重大学人文学部の地域連携の取組を評価するにあたり、どのような視点で評価するか、非常に難しいところですが、いろいろ考えた結果、私の立場としては、県政の基本的な方向との関係で評価を行うのが適切であろうとの結論に至りました。

本県では、総合計画「県民しあわせプラン」のもと、第二次戦略計画において「文化力」「新しい時代の公」を運営の柱として県政の展開を図っています。ここでの「文化」とは、「文化財」といったような狭い意味ではなく、もっと広い人々の様々な活動、その成果という意味で使っており、「文化力」とは、まさに文化の持つ人や地域を元気にする力であると考えています。また、「新しい時代の公」とは、県民の舞台づくりを県だけで行うのではなく、多様な主体で連携して実現しようという考え方を表したものです。

こうした中、大学には「人材」「情報」「設備」が蓄積されていることから、戦略計画においても三重大学をはじめとした高等教育機関を「地域の知の拠点」として位置づけており、県民の「文化力」を、多様な主体と連携して高めていくための、重要なパートナーであると考えています。

このような状況を踏まえて、以下、評価する項目、課題、人文学部への期待について述べたいと思います。

2. 評価する項目

まず、最初に、「公開ゼミ」「三重大学文化フォーラム」「三重の文化と社会」ですが、これらは、まさに県民の「文化力」を高める取組であり、県の政策と軌を一にするものであると言えます。

「公開ゼミ」については、以前、実施していた講義形式の「公開講座」における問題を改善する中で、ゼミ形式に改めて、今年度は講座数も 20 と大幅に増加するなど、多くの参加者から高い評価を受けていることを評価したいと思います。

「三重大学文化フォーラム」についても、地域に出かけ、地域の人たちと一緒に勉強をしようという考え方や、当初は一教員の取組であったものを、人文学部の事業、そして三重大学全体の事業に発展させ、さらに他の大学等とも連携を進めてきた姿勢は、賞賛に値するものであると考えます。

大学院のカリキュラムとして取り組まれている「三重の文化と社会」については、年度毎に研究対象とする市町を選定のうえ、市町とも連携しながら、文献研究、フィールドワークを行い報告書としてまとめ、最終的に学内や現地での報告会を行っていると同っています。本取組は、まさに「研究」「教育」「地域連携」が一体として取り組まれており、持続可能な取組として評価できるものと考えます。

次に、県民の「文化力」を高めるための県の取組における連携事例として、新県立博物館にかかる連携

について触れたいと思います。

「新県立博物館基本計画」では、県民・利用者との協創と多様な主体との連携によって、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を目指すこととしています。そこで、地域に根ざした総合大学である三重大学とは、できるだけ早い段階から連携して取り組みたいと考え、相談を申し上げたところ、快諾をいただきましたので、「基本計画」の実現を通じた三重県の文化振興、ひいては文化力の向上に寄与することを目的とする連携協定を締結することとなりました。

現在、連携のあり方について定期的に協議を進めており、平成 26 年の新博物館の開館までに、より具体的な連携内容を位置づけた相互協力協定の締結を目指しているところですが、一方、できるところから連携を進めるとの考え方のもと、既にいくつか連携した取組を進めているところです。

平成 21 年度には「文化力形成と地域活性化」をテーマに 3 回のシンポジウムを開催しましたが、人文学部関係では、第 2 回「博物と大学の連携により進める人づくり」において、文化学科の塚本教授に「文化財の保全・活用を通じた大学と地域との連携―東紀州地域での試みの事例―」というテーマで事例報告をいただきました。また、新県立博物館の展示設計等についての共同研究として、「御師屋敷の復元研究」における情景の復元を 2 年間の予定で塚本教授を中心に取り組んでいただいているところです。さらに、県立博物館では、県民の皆さんからサポートスタッフを公募し、8 つのグループに分かれて博物館活動へ参加してもらっていますが、その中の歴史グループが進めている古文書の整理についてもご助言をいただいています。

このように、新県立博物館にかかる連携については、協定に基づき、着実、かつ、幅広い取組がなされており、人文学部の取組についても高く評価しているところです。

今後は、相互協力協定締結に向けて、共同研究や職員相互の研究交流のみならず、三重の自然と歴史・文化の資産の保全、データベース構築への相互協力、展示やイベントの共同実施、学校向け学習カリキュラムや教材の共同開発、学生・職員の人材育成の相互協力、さらには博物館運営への参画といった事項についての議論をしっかりしていきたいと考えていますので、引き続きご協力をお願いします。

3. 課題

人文学部の地域連携の取組については、高く評価しているところですが、以下、2 点について、課題を指摘させていただきたいと思います。

一つ目は、全学の取組と貴学部の取組との関係についてです。全学の取組と学部の取組との関係がどう調整されているのか確認したところ、調整の仕組みはなく、それぞれ別個に取り組まれる中で、ケース・バイ・ケースで整理されているとのことでした。地域の課題の多くは学部横断的な内容となっていることが多く、今後はこのような取組が増加していくものと考えられます。こうした中、全学の評価の中で学部としての役割がどういう意味を持ってくるのか、こういった評価の方法もあるかと思いますので、もう少し、全学と学部との調整の仕組みが必要ではないかと感じています。

二つ目は、連携窓口についてです。三重大学とは現在、様々な連携が行われていますが、県の特定の部署と特定の先生といった、点と点を結ぶような連携が多いのが現状です。こうした中、県だけでなく、市町や学校等においても、大学の窓口がわかりにくいという声が、平成 21 年度に県が実施した「高等教育機関の地域貢献シーズ発信促進調査」で明らかとなっているため、大学全体の課題になるかとは思いますが、双方の課題であるとは思いますが、双方からアプローチのしやすいような仕組づくりを考える必要があるのかなと思います。

4. 三重大学人文学部への期待

最後に、人文学部への期待を述べたいと思います。

本県では、平成 21 年度から平成 26 年度までの 6 年間、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大をはかり、自立・持続可能な地域づくりにつなげていくことを目的とした「美し国おこし・三重」に取り組んでいます。

昨年、オープニングイベントの開催とともにスタートし、現在、それぞれの地域における課題の解決、魅力や価値の向上を目指す取組と、あわせて景観づくりや森づくりなど、テーマに基づき全県的に展開する取組を進めており、これらの成果を平成 26 年度の集大成イベントで全国に発信する予定です。

地域における取組では、これまで 1,000 回を超える説明会、座談会を開催し、228 のグループが一緒に活動しています。また、テーマに基づく取組では、「人と自然、人と人、人と地域の絆づくり」を 5 年間の機軸に据えて、今度から 2 年間は「人と自然の絆づくり」の理念のもと、「海の命、森の命」をテーマに様々なプロジェクトを進めているところです。

三重大学においては、これまで、実行委員の内田学長をはじめ、何人かの先生方に構想時の助言、成果交流会のコメンテーター、取組の評価でお世話になっていますし、この 12 月には三重大学において活動報告・交流会を開催することとなっており、そこでもテーマ座談会への学生の参加について教育学部を中心にお世話になっています。さらに、熊野古道センターや地元の古文書同好会との連携による取組や中山間地域等におけるコミュニティ維持に向けた取組などは、地域での「美し国おこし」の実践であるとも評価できます。

今後も三重大学人文学部におかれては、学部における教育や研究において、取組の実施主体、あるいは、他の実施主体の助言者として、より一層の参画をご検討いただくとともに、教員や学生の皆さん個人としての参加についての啓発についてもご協力いただければ幸いです。